

# 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	城東区
学 校 名	大阪市立今福小学校
学校長名	寛座 純一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・今福小学校では、第6学年27名

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

【国語】正答数の分布を見ると、大きく3つの層に分かれている。全国や大阪市の正答数のピークから5問少ないところに本校のピークがきている。平均正答率は大阪市と比べて14ポイント、全国と比べて15.7ポイント下回った。無解答率は11.8で大阪市（3.4）・全国（4.3）に比べても高い。

【算数】国語と同様に正答数の分布が大きく3つの層に分かれている。全国や大阪市の正答数のピークから1～3問少ないところにピークがきている。平均正答率は大阪市と比べて12ポイント、全国と比べて13.2ポイント下回った。無解答率は9.6で国語に比べると低いが大阪市（2.4）・全国（2.6）と比べて高い。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】言葉の特徴や使い方に関する問題で主語と述語の関係や修飾語と被修飾語との関係をとらえる設問は正答率が高かった。しかし、漢字の定着が不十分である児童がみられた。繰り返し練習するだけでなく、他の教科の学習でも適切に使ったり、自分が書いた文章を読み返す中で正しい使い方を習得できるようにしていくことが大切である。また、「話すこと・聞くこと」にも課題がみられた。自分の考えや伝えたい内容を相手にわかりやすく伝えるため、事実や感想、意見を区別して話の構成を考えると資料を効果的に活用するなどの学習をさらに充実させていきたい。

【算数】「図形」では三角形や平行四辺形など図形を構成する要素や面積の求め方ができていない児童が多かった。公式を用いて面積を求めるだけでなく、実際に図形を分割し変形したりして筋道を立てて説明できるようにすることが必要である。また、グラフからデータの特徴や傾向を読み取ることや二つの観点からデータを分類整理し表に表すことに課題がみられた。統計的に解決可能な問題を設定したり、設定した問題に対してどのようなデータを集めるべきかなど児童に考えさせる活動などを取り入れていくことが重要である。

質問紙調査より

「朝食を毎日食べていますか」ではあまり食べていない児童やまったく食べていない児童の割合が全国や大阪府と比べて多かった。平日の読書の量は半数の児童が全くしないと答えている。ボランティアによる読み聞かせ等（現在コロナ対策で停止している）をして低学年から本好きの児童を育てていきたい。「家で自分で計画を立てて勉強していますか」では肯定的に答える児童の割合は全国や大阪府の半分程度である。時間は30分以上1時間以内の児童が多い。今年度から長期休業期間中に自主学習ができるように整えているが、普段から自主学習ノートを使うようにして自分から学習に取り組む習慣を確立していきたい。「自分にはよいところがあると思いますか」では65.4%の児童が肯定的にとらえているが、達成感や自己有用感を持つことができるような取り組みを継続していく。

## 今後の取組(アクションプラン)

【国語】基礎基本の学習は文法については引き続き定着度を高めるようにし、漢字の定着については日頃から学習した漢字は使っていくように声かけをし、漢字検定などを取り入れるなど目標を持たせて児童に取り組ませていきたい。「話すこと・聞くこと」については、自分の考えが伝わるように話す機会を国語だけに限らず、全教科領域で活動できるようにしていく。発表を相互に見合ったり、高学年が低学年にわかるように説明するなど相手意識を持つことができる場の設定を行う。

【算数】図形ではICT機器を活用し視覚的にわかりやすい授業を展開するだけでなく実際に図形を切ったり結合させたりして体験的に学習させ、理解・定着を図る。自分の考えを筋道だてて発表する時間を毎時間必ず取り入れ、言語活動を充実させていく。「数と計算」の基礎基本については現在取り組んでいる一人一人の段階に合わせた個人学習をデジタルドリルを活用してさらに発展・定着させていきたい。